

第 3 章

児童・生徒質問紙調査

I 児童質問紙調査の結果について

1 調査の概要

本意識調査は、次の7点の事項について第5学年の児童に質問した。

- (1) 各教科の内容の理解の程度について
- (2) 各教科の内容が分かる要因について

上記(1)で、「授業がよく分かる」、または「どちらかといえば分かる」と回答した児童を対象に質問した。

■学習方法 ■教員の姿勢 ■学習者の姿勢 ■その他

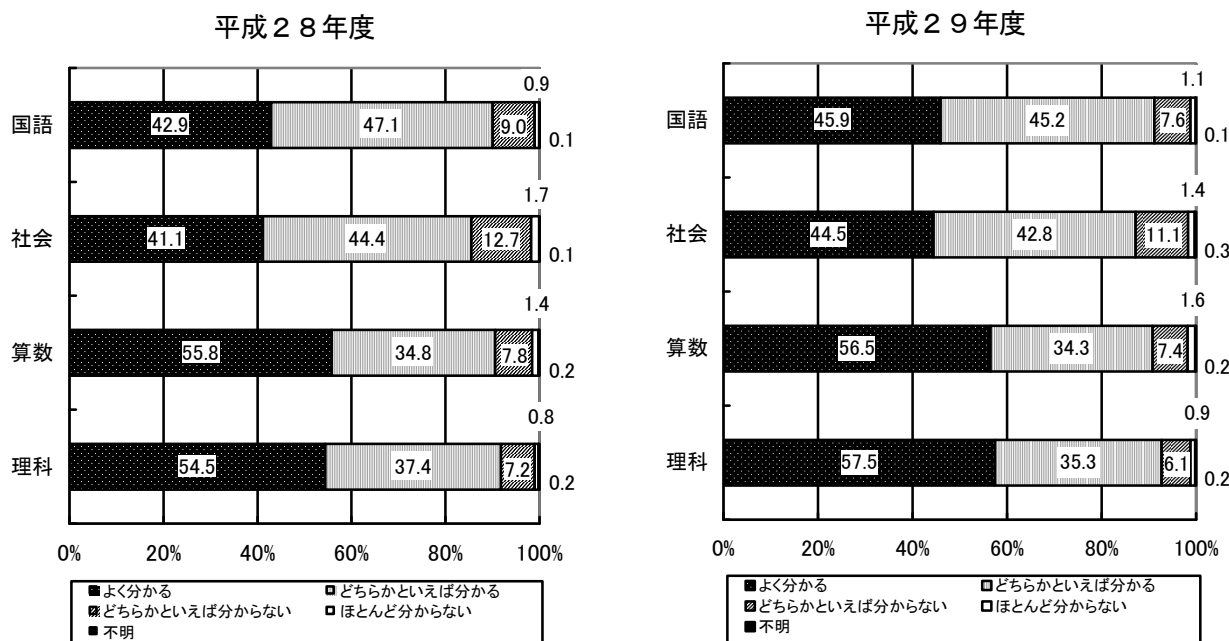
- (3) 算数の学習について、学校以外での学習について
- (4) 理科に関する意識について
- (5) 授業について
- (6) 生活や行動等について
- (7) 外国語活動(英語活動)に関する意識について

なお、本調査は、数値を四捨五入していることから、合計が100%にならないことがある。

2 調査結果の概要

- (1) 各教科の内容の理解の程度について

授業の内容はどのくらい分かりますか。



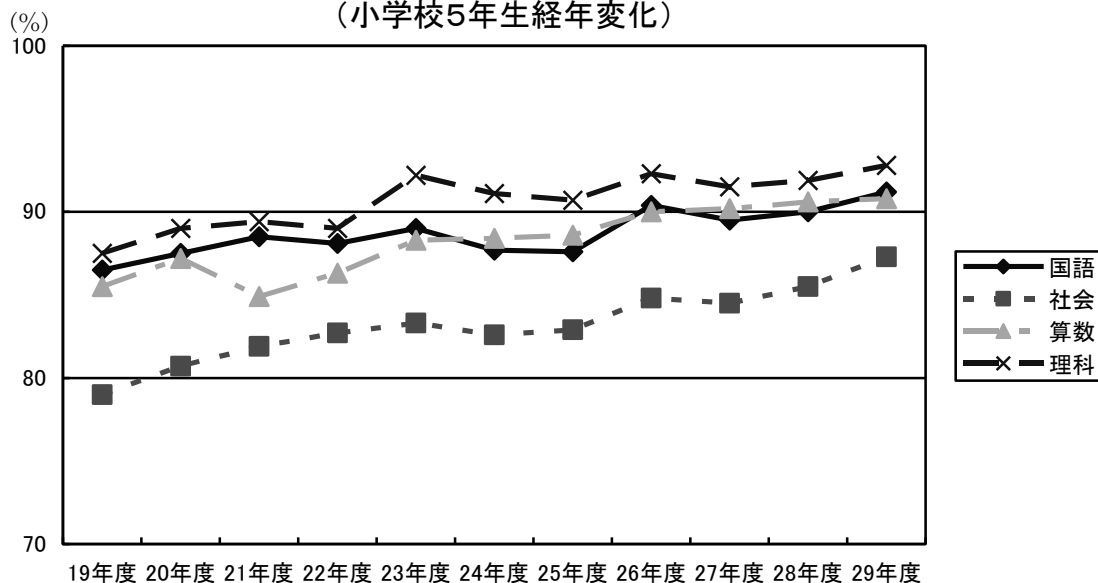
授業内容の理解度と平均正答率との関係	平均正答率 (%)				
	国語	社会	算数	理科	教科合計
よく分かる	77.4	79.2	68.1	76.4	75.3
どちらかといえば分かる	65.1	68.9	54.0	68.5	64.1
どちらかといえば分からない	53.2	57.0	43.2	58.5	53.0
ほとんど分からない	40.9	43.5	30.5	49.0	41.0

平成29年度の第5学年において、授業の内容が、「よく分かる」「どちらかといえば分かる」と回答した児童の割合は、国語が91.1%、社会が87.3%、算数が90.8%、理科が92.8%である。

平成28年度と平成29年度を比較してみると、授業が「よく分かる」「どちらかといえば分かる」と回答した児童の割合は、国語が+1.1ポイント、社会が+1.8ポイント、算数が+0.2ポ

イント、理科が+0.9 ポイントと、どの教科も上昇している。経年比較をすると、国語、算数、理科に比べ社会が低い傾向が続いているものの、その差は縮まりつつある。

授業が「よく分かる」「どちらかといえばよく分かる」と回答した児童の割合(%)
(小学校5年生経年変化)



平均正答率との関連を見ると、調査を実施した全ての教科で、授業が「よく分かる」「どちらかといえば分かる」と回答した児童の平均正答率が、「どちらかといえば分からない」「ほとんど分からない」と回答した児童の平均正答率よりも高くなっている。

(2) 各教科の内容が分かるための要因について

次の表は、授業の内容が分かる要因について、児童が教科ごとに回答した割合が10%以上(平成29年度)のものを示したものである。(数字は回答率、複数回答)

質問内容		平成28年度	平成29年度
国語	お互いに意見を出し合ったり、学び合ったりする授業が多いから	45.2%	47.4%
	出された宿題をきちんとやっているから	47.5%	47.3%
	国語の授業での先生の教え方がていねいだから	42.5%	44.7%
	読書が好きだから	43.3%	43.0%
	塾や家庭で教えてもらっているから	36.8%	37.4%
	自分で考え、考えたことを発表する授業が多いから	37.5%	35.3%
	分からないときには学校の先生に聞くから	19.3%	19.4%
	分からないときには自分で調べるから	19.1%	19.0%

質問内容		平成28年度	平成29年度
社会	社会の授業での先生の教え方がていねいだから	42.8%	43.7%
	世の中のできごとを知ることが好きだから	42.1%	42.5%
	お互いに意見を出し合ったり、学び合ったりする授業が多いから	39.8%	41.3%
	自分で考え、考えたことを発表する授業が多いから	36.7%	35.8%
	出された宿題をきちんとやっているから	33.3%	34.8%
	塾や家庭で教えてもらっているから	28.3%	30.5%
	分からないときには自分で調べるから	22.5%	24.6%
	実際に体験したり、専門家の人の話を聞いたりする授業があるから	22.0%	21.9%
	分からないときには学校の先生に聞くから	18.5%	17.7%
	授業中にくり返し学習する時間があるから	16.1%	16.1%

質問内容		平成28年度	平成29年度
算数	コースに分かれた少人数の学習があるから	67.6%	67.6%
	算数の問題にはいろいろな解き方があるから	60.2%	58.6%
	算数の授業での先生の教え方がていねいだから	44.9%	45.8%
	出された宿題をきちんとやっているから	45.7%	45.5%
	自分で考え、考えたことを発表する授業が多いから	47.4%	43.8%
	塾や家庭で教えてもらっているから	41.1%	41.0%
	お互いに意見を出し合ったり、学び合ったりする授業が多いから	41.0%	40.2%
	ものを使ったり、実際に体験したりする授業が多いから	34.5%	34.0%
	授業中にくり返し学習する時間があるから	24.4%	24.9%
	分からないときには学校の先生に聞くから	23.7%	22.8%
	分からないときには自分で調べるから	16.4%	15.9%

質問内容		平成28年度	平成29年度
理科	観察したり、実験したりする授業が多いから	73.3%	73.8%
	自分で予想し、それを確かめる授業が多いから	62.9%	63.9%
	理科の授業での先生の教え方がていねいだから	43.0%	44.4%
	観察や実験をした後に、じっくりと考える時間が多いから	40.6%	40.1%
	お互いに意見を出し合ったり、学び合ったりする授業が多いから	37.0%	39.7%
	自分で考え、考えたことを発表する授業が多いから	35.1%	34.3%
	出された宿題をきちんとやっているから	32.2%	32.5%
	塾や家庭で教えてもらっているから	28.4%	29.9%
	分からないときには学校の先生に聞くから	18.5%	18.0%
	分からないときには自分で調べるから	18.3%	17.5%
	授業中にくり返し学習する時間があるから	15.4%	15.8%

いずれの教科においても授業が分かる要因として比較的多く選ばれているものは、例えば次のとおりである。

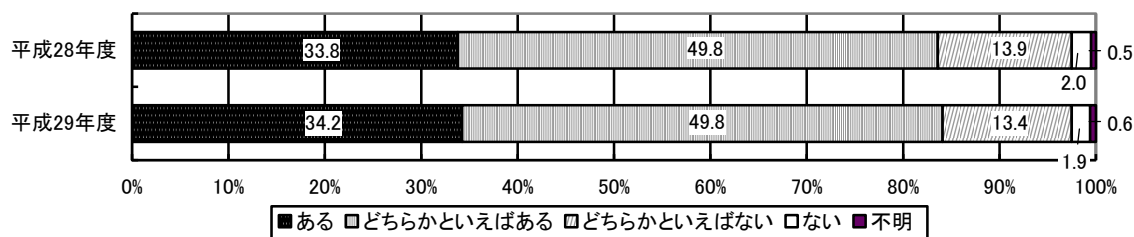
- 学習方法等に関するもの …「実際に体験したり、観察・実験したりする授業」
「お互いに意見を出し合ったり、学び合ったりする授業」
「自分で考え、考えたことを発表する授業」
- 児童の学習姿勢に関するもの…「宿題をきちんとやる」
「分からないときには、先生に聞いたり自分で調べたりする」
- 教員の姿勢に関するもの …「先生の教え方がていねい」

また、教科ごとに見ると、次のような教科の特性等に関するものが要因として多く選ばれている。

- ◆国語…「読書が好きだから」43.0%（平成29年度）
＜昨年度より0.3ポイントの減少＞
- ◆社会…「世の中のできごとを知ることが好きだから」42.5%（平成29年度）
＜昨年度より0.4ポイントの増加＞
- ◆算数…「コースに分かれた少人数の学習があるから」67.6%（平成29年度）
＜昨年度より増減なし＞
「算数の問題にはいろいろな解き方があるから」58.6%（平成29年度）
＜昨年度より1.6ポイントの減少＞
- ◆理科…「観察したり、実験したりする授業が多いから」73.8%（平成29年度）
＜昨年度より0.5ポイントの増加＞

(3) 算数の学習について、学校以外での学習について

① 前の学年までの算数の学習内容を理解している自信がありますか。

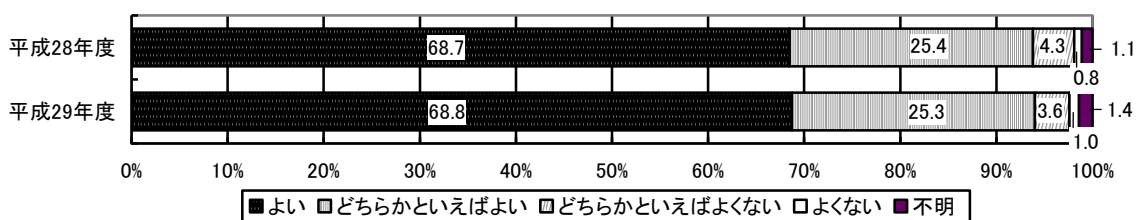


算数の学習内容を理解している自信と平均正答率との関係	算数の平均正答率 (%)
ある	71.2
どちらかといえばある	58.5
どちらかといえばない	46.5
ない	35.8

「前の学年までの算数の学習内容を理解している自信があるか」という質問に対して、「ある」「どちらかといえばある」と回答した児童の割合は84.0%で、昨年度より0.4ポイント増加している。

平均正答率との関連で見ると、「ある」「どちらかといえばある」と回答した児童の平均正答率は、「どちらかといえばない」「ない」と回答した児童の平均正答率よりも高くなっており、その差が顕著となっている。

② 算数において、自分の学力に応じたコースに分かれて授業を受けることについて、どのように思いますか。

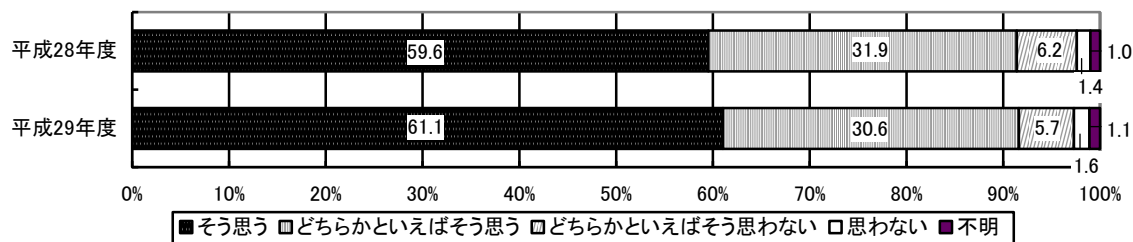


算数において、習熟度に応じた授業を受けることと平均正答率との関係	算数の平均正答率 (%)
よい	64.7
どちらかといえばよい	53.6
どちらかといえばよくない	44.5
よくない	38.0

「算数において、自分の学力に応じたコースに分かれた授業を受けることについてどのように思うか」という質問に対して、「よい」「どちらかといえばよい」と回答した児童の割合は94.1%であり、昨年度とほぼ同じである。このことから、児童は、習熟の程度に応じた授業を受けることについて概ね肯定的に捉えているものと考えられる。

平均正答率との関連で見ると、「よい」「どちらかといえばよい」と回答した児童の平均正答率は、「どちらかといえばよくない」「よくない」と回答した児童の平均正答率よりも高くなっている。このことから、算数における習熟度別指導の実施が、確かな学力の定着につながるものと考えられる。

③ 算数において、自分の学力に応じたコースに分かれて授業を受けることで、学力がつくようになると思いますか。



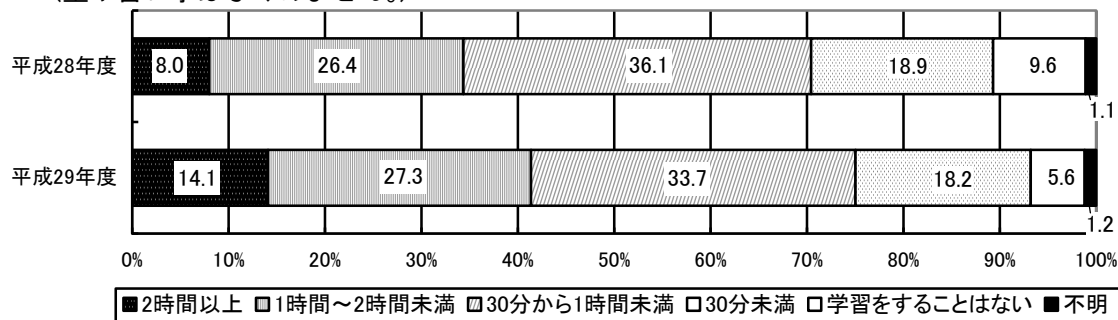
算数において、習熟度別指導の効果があると考えていることと平均正答率との関係	算数の平均正答率 (%)
そう思う	64.2
どちらかといえばそう思う	56.4
どちらかといえばそう思わない	51.5
思わない	49.2

「算数において、自分の学力に応じたコースに分かれて授業を受けることで、学力がつくようになると思うか」という質問に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童の割合は91.7%であり、昨年度より0.2ポイント増加している。9割以上の児童が肯定的な回答をしており、多くの児童が、習熟の程度に応じた授業を受けることで学力が付くようになると思っていると考えられる。

平均正答率との関連で見ると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童の平均正答率は、「どちらかといえばそう思わない」「思わない」と回答した児童の平均正答率よりも高くなっている。

④ 学校以外で、毎日およそどのくらい学習をしますか。

(塾や習い事はふくめません。)

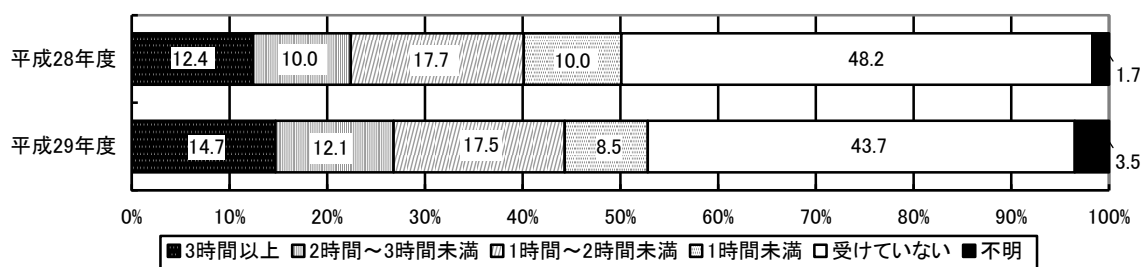


学習時間と平均正答率との関係	平均正答率 (%)				
	国語	社会	算数	理科	教科合計
2時間以上	80.0	80.1	73.3	78.8	78.1
1時間～2時間未満	72.6	75.1	63.9	74.5	71.5
30分～1時間未満	68.7	71.9	59.5	72.1	68.0
30分未満	63.6	65.5	53.8	68.1	62.7
学習をすることはない	56.1	57.1	45.8	60.7	54.9

「学校以外で、毎日およそどのくらい学習をするか」という質問に対して、「学習をしている」と回答した児童の割合の合計は93.3%で、昨年度より3.9ポイント増加している。

平均正答率との関連で見ると、1日に「2時間以上」学習をする児童の平均正答率は、4教科全てにおいて最も高くなっており、学校以外での学習時間が長いほど、平均正答率が高くなっている。

⑤ 塾の先生や家庭教師の先生による学習の時間は、1日当たりどのくらいですか。



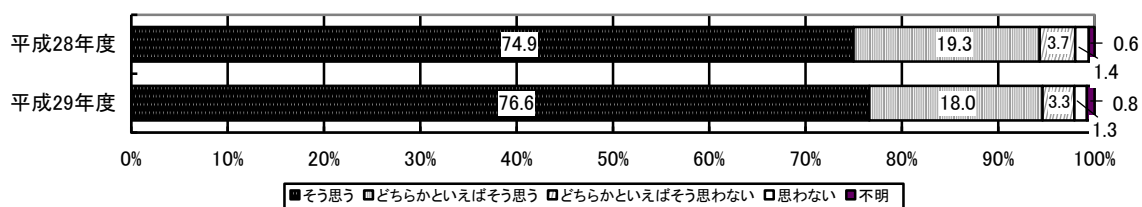
塾や家庭教育による学習時間と平均正答率との関係	平均正答率 (%)				
	国語	社会	算数	理科	教科合計
3時間以上	81.9	81.8	76.6	80.1	80.1
2時間～3時間未満	74.0	75.5	66.7	74.6	72.7
1時間～2時間未満	67.3	68.9	58.4	70.1	66.2
1時間未満	62.3	64.9	53.2	67.0	61.8
受けていない	67.1	70.4	56.7	71.3	66.4

「塾の先生や家庭教師の先生による学習を、1日当たりどのくらいするか」という質問に対して、時間の長さに関わらず「学習をしている」と回答した児童の割合の合計は52.8%であり、昨年度より2.7ポイント増加している。

平均正答率との関連で見ると、1日に「3時間以上」学習をする児童の平均正答率は、4教科全てにおいて最も高くなっている。

(4) 理科に関する意識について

① 理科の授業で、もっと観察・実験をしたいと思いませんか。

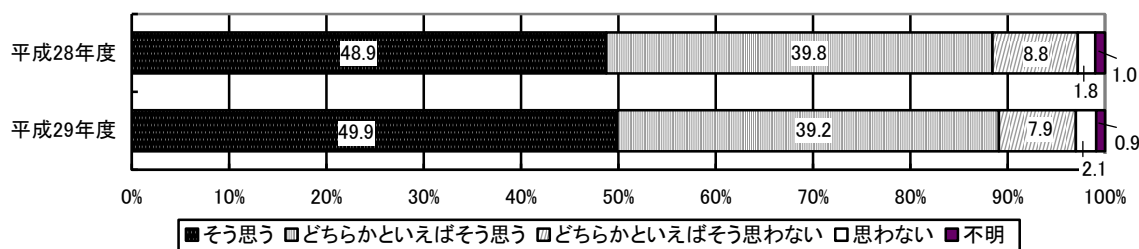


観察・実験への意欲と平均正答率との関係	理科の平均正答率 (%)
そう思う	73.6
どちらかといえばそう思う	69.5
どちらかといえばそう思わない	64.2
思わない	57.9

「理科の授業で、もっと観察・実験をしたいと思うか」という質問に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童の割合は94.6%であり、昨年度より0.4ポイント増加している。

平均正答率との関連で見ると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童の平均正答率は、「どちらかといえばそう思わない」「思わない」と回答した児童の平均正答率よりも高くなっている。

② 理科の授業で学習したことは、ふだんの生活で役立つと思いますか。

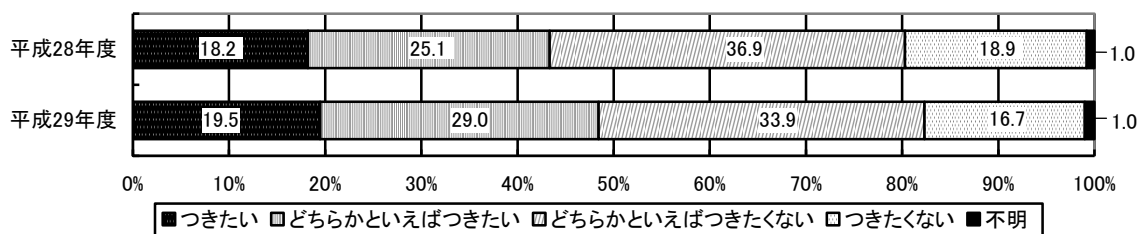


理科の授業の内容がふだんの生活で役立つかという意識と平均正答率との関係	理科の平均正答率 (%)
そう思う	73.8
どちらかといえばそう思う	71.8
どちらかといえばそう思わない	68.4
思わない	63.5

「理科の授業で学習したことは、ふだんの生活で役立つと思うか」という質問に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童の割合は89.1%であり、昨年度より0.4ポイント増加している。

平均正答率との関連で見ると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童の平均正答率は、「どちらかといえばそう思わない」「思わない」と回答した児童の平均正答率よりも高くなっている。

③ 将来、「理科や算数を使ったり、科学技術に関係したりする仕事」につきたいと思いますか。



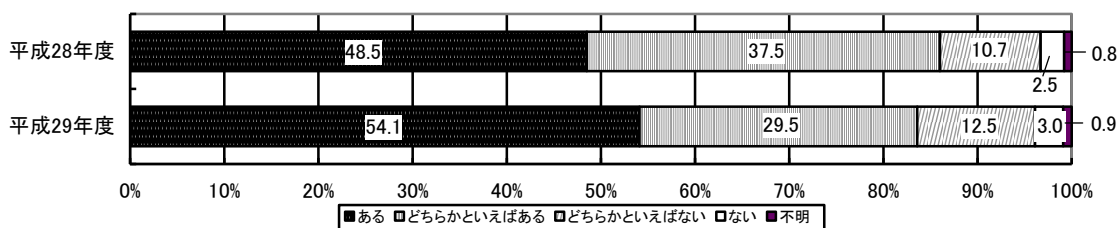
理科や算数、科学技術に関係する仕事への意識と平均正答率との関係	平均正答率 (%)				
	国語	社会	算数	理科	教科合計
つきたい	74.2	75.8	66.8	76.6	73.3
どちらかといえばつきたい	70.1	72.7	62.1	73.5	69.6
どちらかといえばつきたくない	68.5	71.5	58.9	71.0	67.5
つきたくない	66.5	67.3	56.0	68.3	64.5

「将来、理科や算数、科学技術に関係する仕事につきたいと思うか」という質問に対して、「つきたい」「どちらかといえばつきたい」と回答した児童の割合は48.5%であり、昨年度より5.2ポイント増加している。

平均正答率との関連で見ると、「つきたい」「どちらかといえばつきたい」と回答した児童の平均正答率は、「どちらかといえばつきたくない」「つきたくない」と回答した児童の平均正答率よりも高くなっている。

(5) 授業について

① 授業では、自分の考えを発表する機会がありますか。

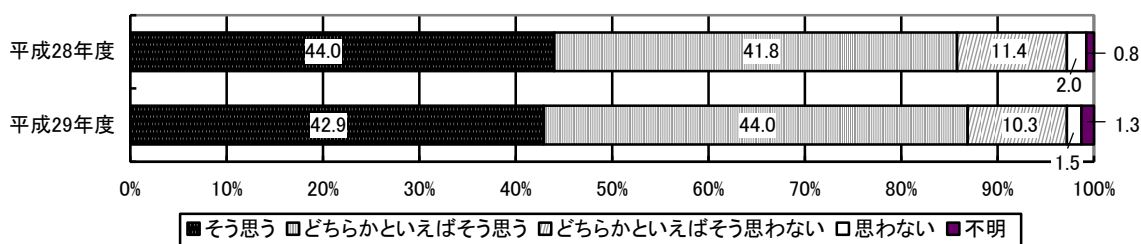


自分の考えを発表する機会と 平均正答率との関係	平均正答率 (%)				
	国語	社会	算数	理科	教科合計
ある	74.4	76.5	65.9	76.3	73.3
どちらかといえばある	66.6	69.4	57.8	69.9	65.9
どちらかといえばない	60.2	62.3	50.6	64.3	59.3
ない	56.1	55.4	43.1	59.0	53.4

「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思うか」という質問に対して、「ある」「どちらかといえばある」と回答した児童の割合は83.6%である。一方、「どちらかといえばない」「ない」と回答した児童の割合は15.5%である。

平均正答率との関連で見ると、「ある」「どちらかといえばある」と回答した児童の平均正答率は、調査を実施した全ての教科で、「どちらかといえばない」「ない」と回答した児童の平均正答率よりも高くなっている。

② 授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思いますか。

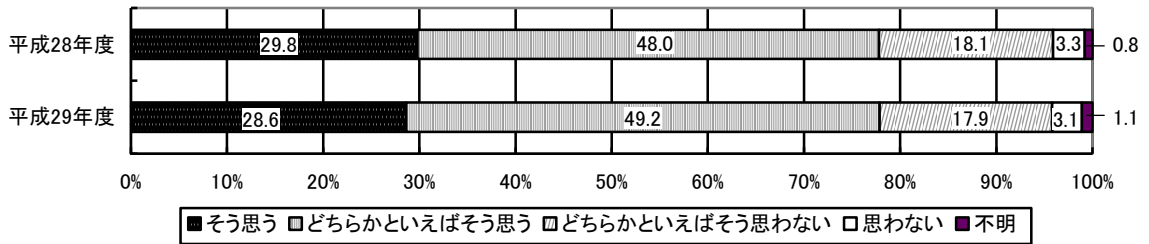


友達との間で話し合う活動の機会と 平均正答率との関係	平均正答率 (%)				
	国語	社会	算数	理科	教科合計
そう思う	73.3	75.4	64.2	75.2	72.0
どちらかといえばそう思う	68.6	71.1	60.0	71.5	67.8
どちらかといえばそう思わない	62.5	64.2	53.1	66.7	61.6
思わない	55.8	54.4	46.7	59.7	54.1

「授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思うか」という質問に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童の割合は86.9%である。一方、「どちらかといえばそう思わない」「思わない」と回答した児童の割合は11.8%である。

平均正答率との関連で見ると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童の平均正答率は、調査を実施した全ての教科で、「どちらかといえばそう思わない」「思わない」と回答した児童の平均正答率よりも高くなっている。

- ③ 授業では、学級やグループの中で自分たちの課題を設定して、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか。

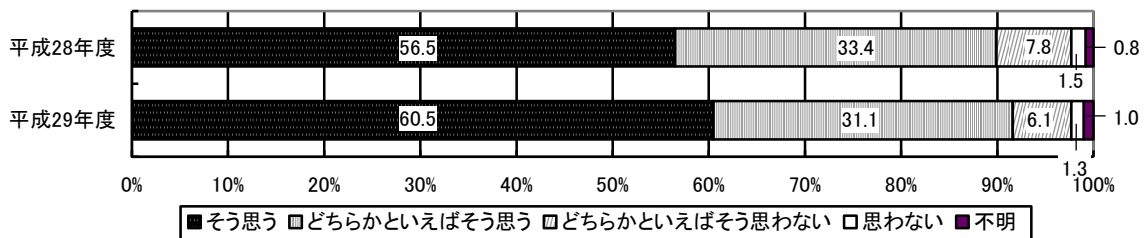


課題を設定して、整理し、発表するなどの学習活動の機会と平均正答率との関係	平均正答率 (%)				
	国語	社会	算数	理科	教科合計
そう思う	73.3	75.5	64.6	74.9	72.1
どちらかといえばそう思う	69.4	71.6	60.4	72.1	68.4
どちらかといえばそう思わない	66.7	69.4	58.0	70.5	66.1
思わない	62.5	61.0	52.1	65.4	60.3

「授業では、学級やグループの中で自分たちの課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいると思うか」という質問に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童の割合は77.8%であり、昨年度とほぼ同じである。一方、「どちらかといえばそう思わない」「思わない」と回答した児童の割合は21.0%である。

平均正答率との関連で見ると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童の平均正答率は、調査を実施した全ての教科で、「どちらかといえばそう思わない」「思わない」と回答した児童の平均正答率よりも高くなっている。

- ④ 授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていると思いますか。



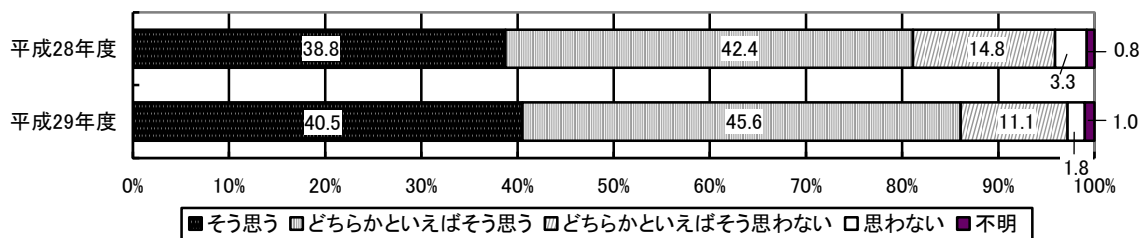
目標が示されていることと平均正答率との関係	平均正答率 (%)				
	国語	社会	算数	理科	教科合計
そう思う	73.7	75.9	64.9	75.5	72.5
どちらかといえばそう思う	65.8	68.2	56.7	69.4	65.1
どちらかといえばそう思わない	55.1	57.2	47.0	59.8	54.8
思わない	51.1	47.9	40.8	55.2	48.7

「授業の中で、目標（めあて・ねらい）が示されていると思うか」という質問に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童の割合は91.6%であり、昨年度とほぼ同じである。一方、「どちらかといえばそう思わない」「思わない」と回答した児童の割合は7.4%である。

平均正答率との関連で見ると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童の平

均正答率は、調査を実施した全ての教科で、「どちらかといえばそう思わない」「思わない」と回答した児童の平均正答率よりも高くなっている。

⑤ 授業では、学習内容を振り返る活動をよく行っていると思いますか。



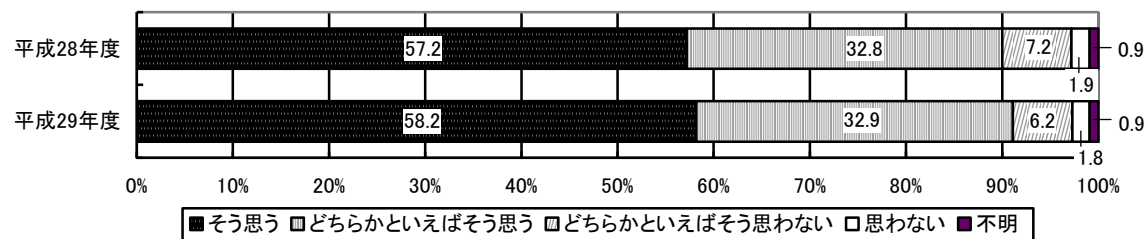
学習内容を振り返る活動を行うことと 平均正答率との関係	平均正答率 (%)				
	国語	社会	算数	理科	教科合計
そう思う	72.2	74.5	63.1	74.3	71.0
どちらかといえばそう思う	69.6	71.8	60.9	72.2	68.6
どちらかといえばそう思わない	64.1	66.4	55.3	68.0	63.4
思わない	55.7	55.0	47.0	60.7	54.6

「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていると思うか」という質問に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童の割合は86.1%である。一方、「どちらかといえばそう思わない」「思わない」と回答した児童の割合は12.9%である。

平均正答率との関連で見ると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童の平均正答率は、調査を実施した全ての教科で、「どちらかといえばそう思わない」「思わない」と回答した児童の平均正答率よりも高くなっている。

(6) 生活や行動等について

① 自分の住む地域や社会をよくしたいと思いますか。



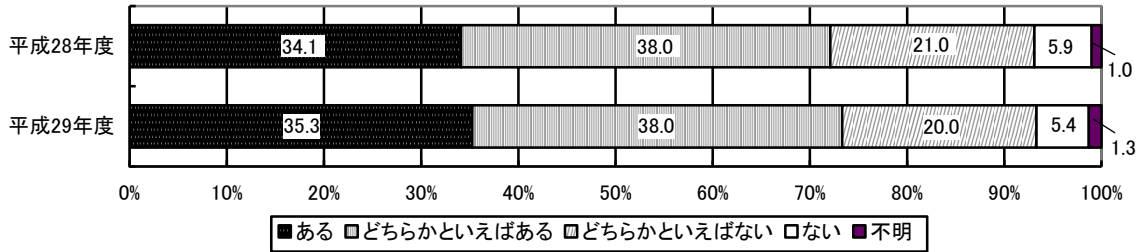
地域や社会をよくする意識と平均正答率との関係	平均正答率 (%)				
	国語	社会	算数	理科	教科合計
そう思う	71.9	74.4	62.9	74.0	70.8
どちらかといえばそう思う	68.2	70.4	59.4	71.2	67.3
どちらかといえばそう思わない	61.7	62.4	53.4	65.8	60.8
思わない	59.1	55.5	50.9	62.5	57.0

「自分の住む地域や社会をよくしたいと思いますか」という質問に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童の割合は91.1%であり、昨年度から1.1ポイント増加している。

平均正答率との関連で見ると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童

の平均正答率は、調査を実施した全ての教科で、「どちらかといえばそう思わない」「思わない」と回答した児童の平均正答率よりも高くなっている。

② たとえ小さなことでも、地域や社会をよくするために何かしたことがありますか。

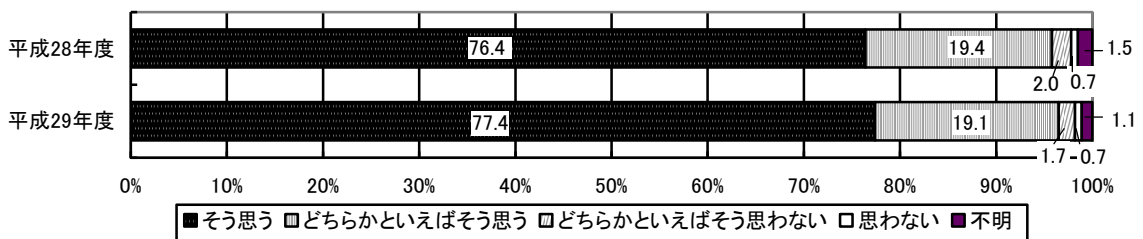


地域や社会への貢献度と平均正答率との関係	平均正答率 (%)				
	国語	社会	算数	理科	教科合計
ある	73.0	75.4	64.3	74.9	71.9
どちらかといえばある	69.9	72.1	60.9	72.5	68.8
どちらかといえばない	65.4	68.3	57.0	69.4	65.0
ない	64.7	64.1	55.0	67.0	62.7

「たとえ小さなことでも、地域や社会をよくするために何かしたことがあるか」という質問に対して、「ある」「どちらかといえばある」と回答した児童の割合は73.3%であり、昨年度より1.2ポイント増加している。

平均正答率との関連で見ると、「ある」「どちらかといえばある」と回答した児童の平均正答率は、「どちらかといえばない」「ない」と答えた児童の平均正答率よりも高くなっている。

③ 学校のきまりを守る事が大切だと思いますか。

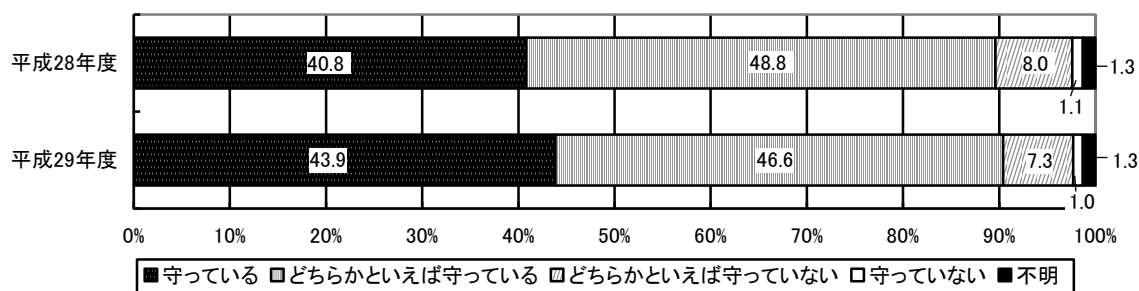


規範意識と平均正答率との関係	平均正答率 (%)				
	国語	社会	算数	理科	教科合計
そう思う	70.5	73.1	61.7	73.0	69.5
どちらかといえばそう思う	67.7	68.9	58.9	70.8	66.6
どちらかといえばそう思わない	65.3	62.8	54.2	68.2	62.6
思わない	60.9	58.6	51.5	64.0	58.8

「学校のきまりを守る事が大切だと思うか」という質問に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童の割合は96.5%であり、昨年度より0.7ポイント増加している。

平均正答率との関連で見ると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童の平均正答率は、「どちらかといえばそう思わない」「思わない」と回答した児童の平均正答率よりも高くなっている。

④ 学校のきまりを守っていますか。



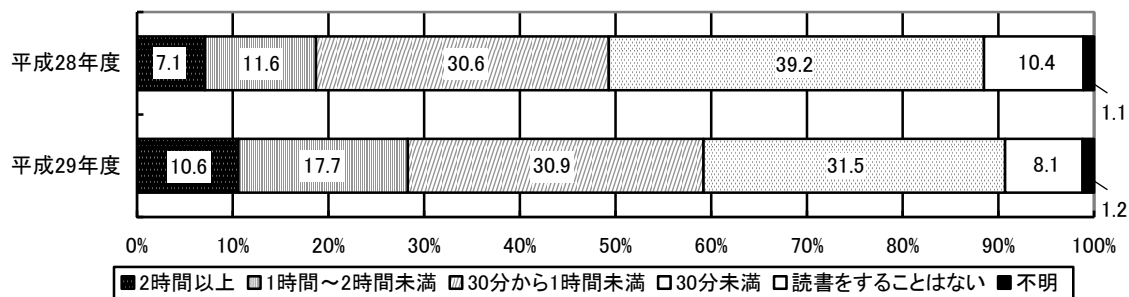
学校のきまりを守っていることと平均正答率との関係	平均正答率 (%)				
	国語	社会	算数	理科	教科合計
守っている	72.2	74.4	62.9	74.0	70.9
どちらかといえば守っている	68.9	71.3	60.2	71.9	68.1
どちらかといえば守っていない	62.8	64.4	55.1	67.5	62.4
守っていない	59.6	57.2	53.1	63.3	58.3

「学校のきまりを守っているか」という質問に対して、「守っている」「どちらかといえば守っている」と回答した児童の割合は90.5%であり、昨年度から0.9ポイント増加している。

平均正答率との関連で見ると、「守っている」「どちらかといえば守っている」と回答した児童の平均正答率は、「どちらかといえば守っていない」「守っていない」と回答した児童の平均正答率よりも高くなっている。

⑤ 毎日読書をどのくらいしますか。

(学校での読書をふくめてよい。ただし、教科書やマンガはのぞきます。)

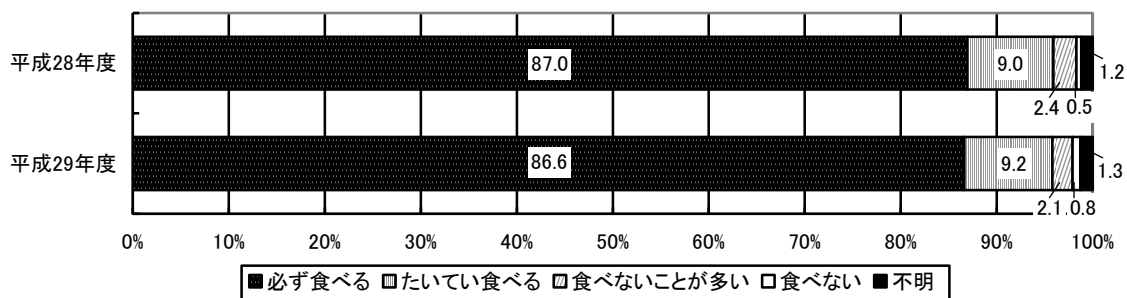


読書時間と平均正答率との関係	平均正答率 (%)				
	国語	社会	算数	理科	教科合計
2時間以上	76.4	77.0	64.8	76.3	73.6
1時間～2時間未満	74.1	75.5	64.4	75.5	72.4
30分～1時間未満	71.8	74.3	63.2	74.4	70.9
30分未満	66.5	69.3	58.5	69.7	66.0
読書をすることはない	57.6	60.2	50.0	63.4	57.8

「毎日読書をどのくらいするか」という質問である。時間の長さに関わらず「読書をする」と回答した児童の割合の合計は90.7%で、昨年度から2.2ポイント増加している。

平均正答率との関連で見ると、1日の読書をする時間が増加するにつれて児童の平均正答率が高くなっている。

⑥ 学校に行く前に朝食を食べますか。

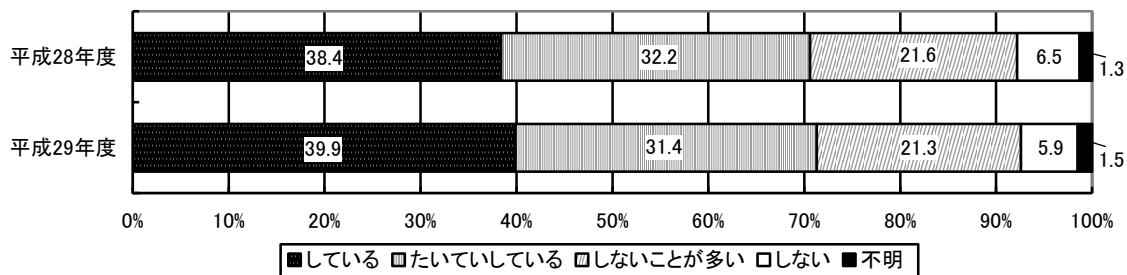


朝食を食べること と平均正答率との関係	平均正答率 (%)				
	国語	社会	算数	理科	教科合計
必ず食べる	71.0	73.5	62.3	73.4	70.0
たいてい食べる	62.7	63.8	53.2	66.4	61.5
食べないことが多い	58.4	57.4	47.5	63.6	56.7
食べない	57.4	55.1	47.7	58.9	54.8

「学校に行く前に朝食を食べるか」という質問に対して、「必ず食べる」「たいてい食べる」と回答した児童の割合は95.8%で、昨年度より0.2ポイント減少している。

平均正答率との関連で見ると、「必ず食べる」「たいてい食べる」と回答した児童の平均正答率は、「食べないことが多い」「食べない」と回答した児童の平均正答率よりも高くなっている。

⑦ 家の人と、学校や社会の出来事について話をしていますか。

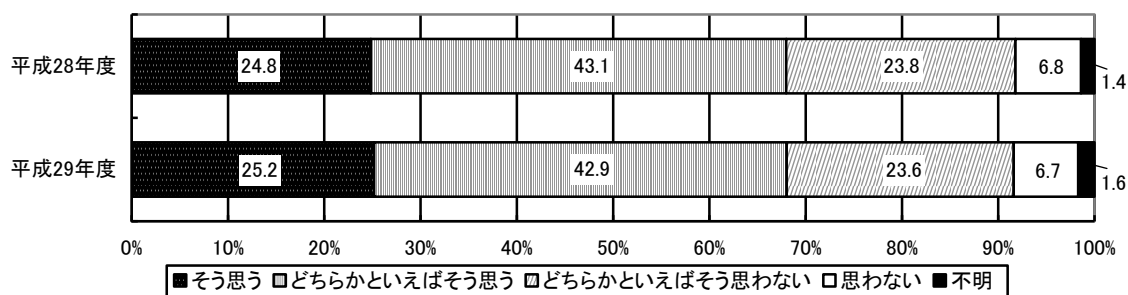


家族と話をしていること と平均正答率との関係	平均正答率 (%)				
	国語	社会	算数	理科	教科合計
している	74.0	76.4	64.6	75.5	72.6
たいていしている	69.1	71.5	60.6	71.8	68.2
しないことが多い	66.0	68.3	57.7	70.1	65.5
しない	59.7	59.6	50.5	63.6	58.3

「家の人と、学校や社会の出来事について話をしているか」という質問に対して、「している」「たいていしている」と回答した児童の割合は71.3%で、昨年度より0.7ポイント増加している。

平均正答率との関連で見ると、「している」「たいていしている」と回答した児童の平均正答率は、「しないことが多い」「しない」と回答した児童の平均正答率よりも高くなっている。

⑧ 自分は、最後までやりぬくなど、根気強い方だと思いますか。

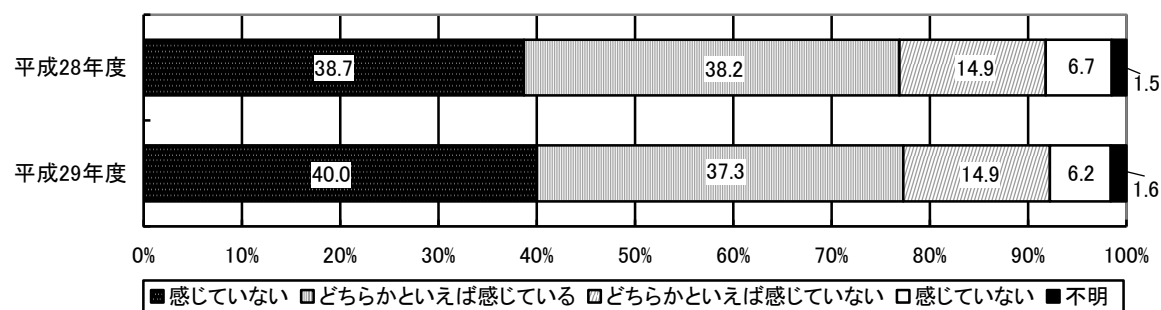


根気強さと 平均正答率との関係	平均正答率 (%)				
	国語	社会	算数	理科	教科合計
そう思う	72.2	74.6	64.3	73.9	71.3
どちらかといえばそう思う	70.6	73.3	61.9	73.4	69.8
どちらかといえばそう思わない	67.3	69.3	57.9	70.9	66.4
思わない	65.5	65.0	53.7	66.8	62.7

「自分は、最後までやりぬくなど、根気強い方だと思うか」という質問に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童の割合は68.1%で、昨年度より0.2ポイント増加している。

平均正答率との関連で見ると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童の平均正答率は、「どちらかといえばそう思わない」「思わない」と回答した児童の平均正答率よりも高くなっている。

⑨ 自分のことを大切な存在だと感じていますか。

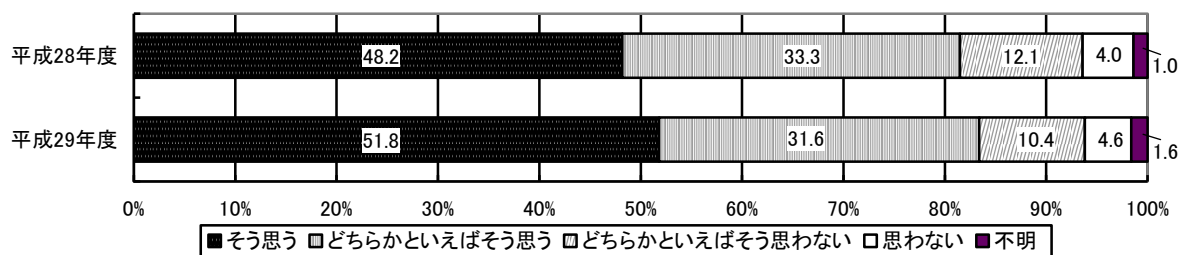


自尊感情と 平均正答率との関係	平均正答率 (%)				
	国語	社会	算数	理科	教科合計
感じている	70.3	73.2	62.0	73.0	69.6
どちらかといえば感じている	70.6	72.7	61.6	73.0	69.5
どちらかといえば感じていない	68.4	70.0	58.9	71.4	67.2
感じていない	66.9	66.0	56.6	68.9	64.6

「自分のことを大切な存在だと感じているか」という質問に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童の割合は77.3%で、昨年度より0.4ポイント増加している。

平均正答率との関連で見ると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童の平均正答率は、「どちらかといえばそう思わない」「思わない」と回答した児童の平均正答率よりも高くなっている。

⑩ 自分の国のよいところを外国の人に伝えたいと思いますか。

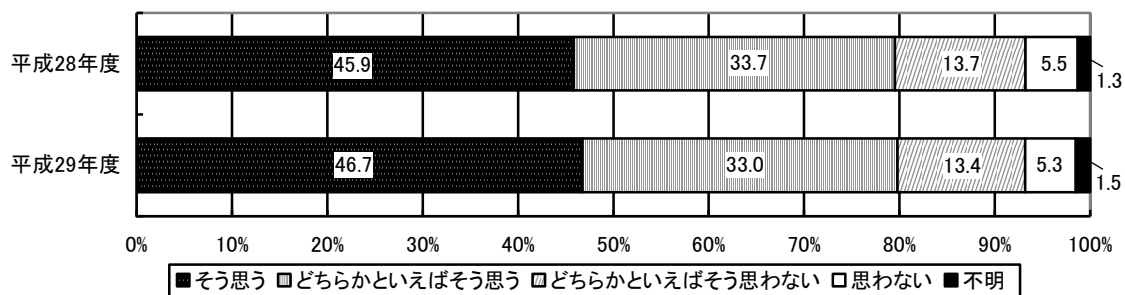


自国のよいところを伝える意識と平均正答率との関係	平均正答率 (%)				
	国語	社会	算数	理科	教科合計
そう思う	71.7	74.5	62.8	74.1	70.8
どちらかといえばそう思う	69.3	71.6	60.6	72.0	68.4
どちらかといえばそう思わない	65.4	66.3	56.6	68.5	64.2
思わない	63.2	62.2	54.3	66.4	61.5

「自分の国のよいところを外国の人に伝えたいと思うか」という質問に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童の割合は83.4%であり、昨年度より1.9ポイント増加している。

平均正答率との関連で見ると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童の平均正答率は、「どちらかといえばそう思わない」「思わない」と答えた児童の平均正答率よりも高くなっている。

⑪ 将来、社会や人のために役立つ仕事がしたいと思いますか。

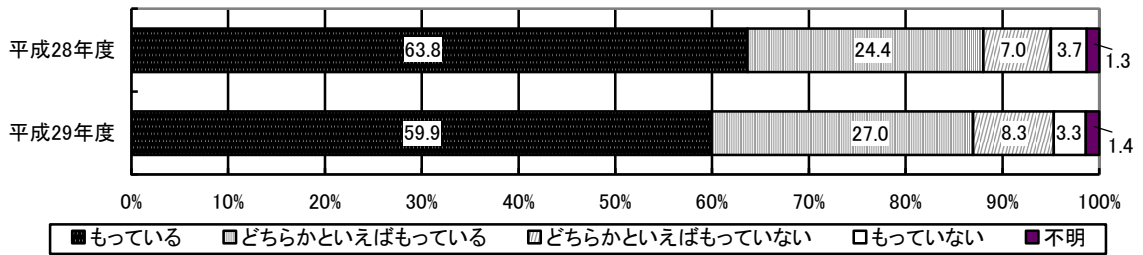


社会貢献への意識と平均正答率との関係	平均正答率 (%)				
	国語	社会	算数	理科	教科合計
そう思う	72.4	74.9	63.7	74.5	71.4
どちらかといえばそう思う	69.6	71.4	60.5	72.2	68.4
どちらかといえばそう思わない	65.1	68.1	56.4	68.7	64.5
思わない	62.4	62.0	52.6	65.6	60.6

「将来、社会や人のために役立つ仕事がしたいと思うか」という質問に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童の割合は79.7%であり、昨年度とほぼ同じである。

平均正答率との関連で見ると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童の平均正答率は、「どちらかといえばそう思わない」「思わない」と回答した児童の平均正答率よりも高くなっている。

⑫ 自分の将来に、希望をもっていますか。



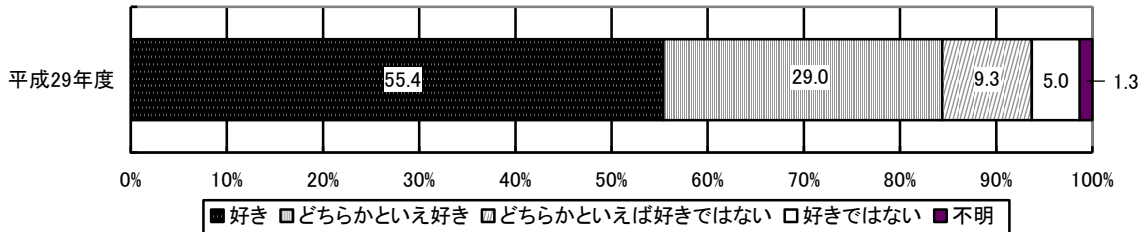
将来への希望と 平均正答率との関係	平均正答率 (%)				
	国語	社会	算数	理科	教科合計
持っている	70.7	73.2	61.8	72.9	69.7
どちらかといえば持っている	69.6	72.0	60.9	72.5	68.7
どちらかといえばもっていない	67.3	68.0	58.5	70.9	66.2
もっていない	63.1	62.9	53.1	66.9	61.5

「自分の将来に、希望をもっているか」という質問に対して、「もっている」「どちらかといえばもっている」と回答した児童の割合は、86.9%であり、昨年度より1.3ポイント減少している。

平均正答率との関連で見ると、将来への希望をもっているという意識が明確であるほど、平均正答率が高くなっている。

(7) 外国語活動（英語活動）に関する意識について

① 外国語活動（英語活動）の授業は好きですか。

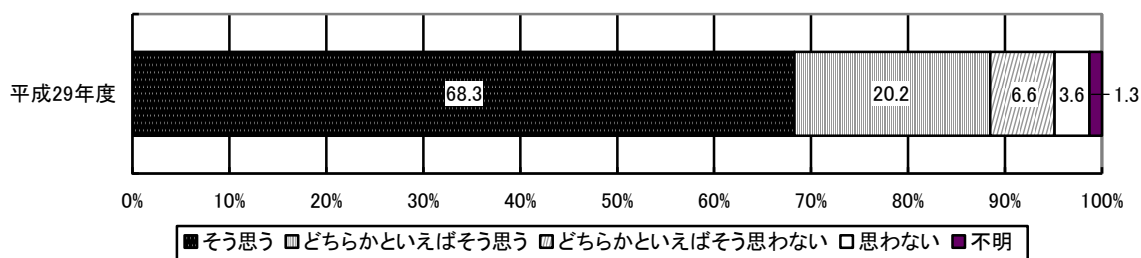


外国語活動（英語活動）の 授業と平均正答率との関係	平均正答率 (%)				
	国語	社会	算数	理科	教科合計
好き	71.2	73.6	62.0	73.3	70.0
どちらかといえば好き	68.7	71.0	60.3	71.6	67.9
どちらかといえば好きではない	67.8	69.4	59.2	71.4	66.9
好きではない	66.8	66.5	57.2	69.3	65.0

「外国語活動（英語活動）の授業は好きか」という質問に対して、「好き」「どちらかといえば好き」と回答した児童の割合は84.4%である。

平均正答率との関連で見ると、「好き」「どちらかといえば好き」と回答した児童の平均正答率は、調査を実施した全ての教科で、「どちらかといえば好きではない」「好きではない」と回答した児童の平均正答率よりも高くなっているが、その差は教科全体で見ると5.0ポイントであり、他の質問項目の結果と比較すると小さい。

② 英語を使える（英語を聞いたり話したりして、思っていることを伝え合える）ようになりたいですか。



英語の活用の意欲と 平均正答率との関係	平均正答率 (%)				
	国語	社会	算数	理科	教科合計
そう思う	71.9	74.4	63.1	74.1	70.9
どちらかといえばそう思う	66.8	68.8	58.1	70.5	66.1
どちらかといえばそう思わない	62.0	63.3	53.0	65.0	60.8
思わない	62.5	61.7	51.8	65.6	60.4

「英語を使える（英語を聞いたり話したりして、思っていることを伝え合える）ようになりたいか」という質問に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童の割合は88.5%である。

平均正答率との関連で見ると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童の平均正答率は、「どちらかといえばそう思わない」「思わない」と答えた児童の平均正答率よりも高くなっている。

3 指導の改善に向けて

本調査の結果から、確かな学力の向上を図るための指導上の改善点について以下に示す。

(1) 授業改善のための視点

① 知識・技能の確実な定着

本調査の結果から、国語、社会、算数、理科のどの教科においても、授業が「よく分かる」と感じている児童ほど、平均正答率が高いことが分かる。授業が「よく分かる」と回答した児童と「ほとんど分からない」と回答した児童の平均正答率の差は、国語が 36.5 ポイント、社会が 35.7 ポイント、算数が 37.6 ポイント、理科が 27.4 ポイントである。これらの結果から、「できない」「分からない」箇所があれば、繰り返しの指導や前の学年の内容に立ち戻った指導を通して「できる」「分かる」ようにする指導を徹底することが求められる。

特に、学習内容の系統性が強い算数は、他の教科と比較して、授業が「よく分かる」と回答した児童と「ほとんど分からない」と回答した児童の平均正答率の差が大きいことから、小学校第 1 学年の時点から、繰り返しの指導による基礎的・基本的な事項の確実な定着が大切であると考えられる。

② 思考力・判断力・表現力等の更なる育成

本調査の「読み解く力」に関する事項についての結果から、どの教科においても、「比較・関連付けて読み取る力」や「意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力」の平均正答率が低い傾向にある。

したがって、「授業の中で目標を示す」、「自分たちで課題を設定して、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理し発表する」ように、授業のねらいを明確にした上で、自力で課題を追究したり、追究したことを対話し、考えをまとめ発表したりするなどの学習活動を充実させて、授業改善を図ることが求められる。

③ 個に応じた指導の充実

本調査の結果から、「算数において、自分の学力に応じたコースに分かれて授業を受けることについて、どのように思いますか」「算数において、自分の学力に応じたコースに分かれて授業を受けることで、学力がつくようになると思いますか」の質問に対して「よい」「そう思う」と回答した児童ほど、平均正答率が高い傾向にある。したがって、児童一人一人の特性を理解し、習熟の程度を的確に把握するとともに、習熟度別指導を実施する際には、学習集団の特性に応じた課題や教材等を設定することが大切である。また、一人一人の児童の学力を伸長する観点から、コースによって取り扱う内容を吟味し、設定した学習到達度まで確実に引き上げていくことが求められる。

(2) 学校と家庭との連携を図った指導の充実

本調査及びこれまでの調査の結果から、基本的な生活習慣、規範意識、忍耐力、自尊感情、奉仕の精神、社会貢献に関する質問に対して「している(そう思う等)」と回答した児童ほど、平均正答率が高い傾向にある。また、家庭での学習習慣が身に付いている児童ほど平均正答率が高い傾向にある。

したがって、家庭との連携をより一層深め、児童一人一人の基本的な生活習慣や学習習慣が確立できるよう指導していくことが大切である。また、学校の学習の様子や出来事を家庭に伝え、学校や社会の出来事を家庭で話し合えるよう働きかけることが大切である。